



平成19年5月2日

各 位

会 社 名 丸紅建材リース株式会社
代表者氏名 代表取締役社長 高畑 千秋
(コード番号 9763 東証第1部)
問 合 せ 先 常務取締役経理部長 向井 正明
(TEL. 03-5404-8200)

(訂正) 平成19年3月期 決算短信の一部訂正のお知らせ

本日、平成19年5月2日に発表いたしました「平成19年3月期 決算短信」の記載内容の一部に誤りがありましたので、下記のとおりお知らせいたします。なお、訂正箇所は、下線にて表示しております。なお、この訂正による「平成19年3月期 決算短信」1 ページ 3. 平成20年3月期の連結業績予想の数値の訂正はありません。

記

「平成19年3月期 決算短信」の訂正箇所
・4ページ 1 経営成績(4)次期の見通し

【訂正前】

(4) 次期の見通し

今後の見通しといたしましては、米国経済の減速、金利の上昇等懸念材料はあるものの、景気動向は緩やかな拡大基調が持続するものと見込まれます。

しかしながら、建設業界におきましては、民間設備投資の需要はあるものの、公共建設投資は減少傾向が続き、価格面への影響も懸念され、受注環境は更に厳しさが増すものと予想されます。

このような見通しの中、当社グループは3ヶ年計画「Step Up 2007」の最終年度を迎え、今後も収益重視の方針の下、業界環境の変化に対応しながら受注強化に努め、より一層の収益力および財務体質の強化を図り、安定的な成長・発展に努めてまいります。

以上により、通期の業績につきましては、売上高223億円、経常利益8億1千万円、当期純利益5億4千万円を見込んでおります。

【訂正後】

(4) 次期の見通し

今後の見通しといたしましては、米国経済の減速、金利の上昇等懸念材料はあるものの、景気動向は緩やかな拡大基調が持続するものと見込まれます。

しかしながら、建設業界におきましては、民間設備投資の需要はあるものの、公共建設投資は減少傾向が続き、価格面への影響も懸念され、受注環境は更に厳しさが増すものと予想されます。

このような見通しの中、当社グループは3ヶ年計画「Step Up 2007」の最終年度を迎え、今後も収益重視の方針の下、業界環境の変化に対応しながら受注強化に努め、より一層の収益力および財務体質の強化を図り、安定的な成長・発展に努めてまいります。

以上により、通期の業績につきましては、売上高222億円、経常利益8億1千万円、当期純利益5億4千万円を見込んでおります。

以 上